市長の伊賀じまん

― 伊賀の扁額巡り ―

▶旧崇広堂扁額「崇廣堂」

扁額という言葉をご存じですか。

扁額とは、家の中や門などに掲げる額のことです。皆さんも、家の中に絵や文字の描かれた額が飾られているのを見たことがあるのではないでしょうか。それらは江戸から明治にかけての著名な文化人や学者が書き記したものが多く、市内では、藤堂藩の儒学者である斎藤拙堂や、幕末から大正期に活躍した文人画家の富岡鉄斎らの作品を目にすることがあります。

また、伊賀には、家の中にある扁額だけでなく、屋外にある貴重な扁額も数多く残されています。

その１つは長田の西蓮寺にあり、室町時代に天台真盛宗を興した真盛上人の御廟の正面にかけられています。この扁額は昭和天皇がお書きになったもので、そこには明治天皇が真盛上人に贈った名とされる「慈摂」という文字が書かれています。

▲菅原神社扁額「菅聖廟」

また、菅原神社の楼門には江戸時代中期に京都の曼殊院の門跡であった良尚法親王によって書かれた「菅聖廟」という扁額があります。これは、菅原道真を祀った社であるという意味で、当時は全ての天満宮を曼殊院が管轄しており、この菅原神社は重要な社とされていたようです。ほかにも、この楼門をくぐった先には、藤堂藩の儒学者である中内樸堂によって書かれた「悲忱*」という扁額もあります。

悲

そして、旧崇広堂の講堂には、米沢藩主であり、名君と謳われた上杉鷹山によって書かれた扁額（現在はレプリカ）が掲げられています。上杉鷹山の残した文字は非常に少なく、この扁額は、彼の地元である米沢でも大変貴重なものとされているようです。

このように、興味深い扁額が市内にたくさんあることは、私たちの地域の歴史や文化度の高さを今に伝えてくれています。皆さんも、身近な神社や寺院の扁額を見つけて、それがいったい誰によって書かれたものなのかを調べてみるとおもしろいのではないでしょうか。隠れた歴史や、思わぬ人物の作品に出合えるかもしれません。　（伊賀市長　岡本　栄）

＊~~悲~~悲忱…「誠意誠心のある者には神の加護がある」の意

◆ 日頃からかかりつけ医をもち、体調管理に努めましょう

応急診療所だより

【問い合わせ】医療福祉政策課
☎ 22-9705　FAX 22-9673

応急診療所について、よくある質問を紹介します。

問１）どこにありますか？

答）住所は、上野桑町 1615 番地で岡波総合病院北隣にあります。電話番号は 22-9990 です。

問２）どんな診療科目がありますか？

答）診療科目は、一般診療と小児科です。夜間や休日、急に発病したときに応急的な診察が受けられるよう設置しています。経過を詳しく見ていかなければならない場合や、より詳しい検査が必要な場合は、必ず翌日に、かかりつけの病院を受診してください。

問３）診療日や診療時間は決まっていますか？

答）月～土曜日は午後８時～ 11 時、日曜日・祝日は午前９時～正午・午後２時～５時・午後８時～ 11 時です。受付は、診療終了時刻の 30 分前までです。

問４）診察のときに持っていくものはありますか？

答）健康保険証・各種受給者証・飲んでいる薬の内容がわかるお薬手帳をお持ちください。

問５）処方される薬はどこで受け取れますか？

答）当番薬局での受け取りです。原則１日分です。

問６）応急診療所で対応できないときは、どうなりますか？

答）診察の結果、応急診療所以外での治療が必要と医師が判断した場合は、当番病院（上野総合市民病院、岡波総合病院、名張市立病院）を紹介します。当番病院の受け入れが難しい場合は、近隣地域の病院を紹介します。患者さんにはご不便をおかけしますが、ご理解ください。

問７）どれくらいの患者さんが来ていますか？

答）昨年の受診者数は、一般診療 4,274 人、小児科 3,329 人で合計 7,603 人でした。平均すると一般診療は１日 12 人、小児科は９人となります。ただし、年末年始や大型連休などの時期は、普段より大勢の人が来院し、混雑しますので、待ち時間が長くなることが想定されます。

鼻出血やのど、耳などの異物除去などの処置は応急診療所で対応できません。㈶三重県救急医療情報センター（☎ 24-1199）までお問い合わせください。

介護相談員だより

特別養護老人ホームの日常から

特別養護老人ホームは、在宅での生活が困難な要介護者が生活する施設です。一般的に、趣味を持つ人や積極的に人や物事と関わりを持つ人は施設に入所しても生活になじみやすいようです。職員も、利用者が今まで生きがいとしてきたことや今できることを考え、一人ひとりが自分らしく生き生きと生活できるよう努めています。

施設内には、利用者による手芸・折り紙・習字・俳句などの作品が展示され、利用者の意欲の向上につながっています。また、季節感を大切にしたお花見や夏祭り、誕生日会なども計画され、利用者の生活に潤いを与えています。ほかにも、利用者が積極的にリハビリに取り組めるよう、利用者と共に目標を設定するなど工夫している施設もあります。

その結果、利用者からは「ここにいるとみんなが一緒で寂しくなく、職員さんもよくしてくれて安心です。」といった声が多く寄せられています。

【問い合わせ】
介護高齢福祉課　☎ 26-3939　FAX 26-3950

伊賀線だより

8月8日に開業100周年を迎えます

1897（明治30）年に現在のJR伊賀上野駅が三田村で開業したことで、上野町の人々にとってその駅に行くまでの手段が課題となりました。

そこで、上野町の青年らが中心となり、地元の人々に呼びかけて出資を集め、伊賀軌道㈱を設立、1916（大正５）年に現在の伊賀上野～上野市間3.9㎞の鉄道が開業しました。その６年後には名張まで延伸、さらに４年後には全線電化し、開業を支援した田中善助氏の伝記には「資金は全部地方民の出資で、都会から資本家も迎えず固定借入金もせずというので、全国鉄道界の評判となった」と記されています。

地域の人々によって敷設された伊賀線は、地域の人々によって支えられてきました。2017（平成29）年４月には、伊賀線は公有民営化され、これまで以上に「地域が支える鉄道」として運行していきます。皆さんの積極的な利用をお願いします。

【問い合わせ】　交通政策課
☎ 22-9663　FAX 22-9852

明日に向かって ～差別をなくしていくために～

人権について考えるコラムです。

先人の思いと偉業～伊賀水平社の設立～　－総務課－

1922（大正11）年３月３日、京都市岡崎公会堂において、「人の世に熱あれ、人間に光あれ」と結ばれた「水平社宣言」とともに全国水平社が設立されました。これは、全国の部落差別に苦しむ人々が結集し、立ち上がった瞬間でした。

これを契機に、全国各地で地域の水平社が結成されるようになりました。今回は、伊賀に設立された地域の水平社である「伊賀水平社」を紹介したいと思います。

伊賀水平社設立の中心となったのは、当時の城南村の青年層でした。のちに城南村長となる田中佐武郎氏は、22歳のとき、伊賀水平社設立のため仲間とともに「水平社の歌」を作るなど、創立に向けた活動を展開しました。

1922年10月27日、いよいよ伊賀水平社創立大会が開催されることになりました。会場となった上野忍町にあった劇場旭座には、早朝から続々と参加者がつめかけ、開会までに超満員となる大盛況でした。大会では、伊賀水平社の綱領と宣言が満場一致で決議され、続いて演説会が開かれました。その様子について当時の新聞『伊賀日報』は、「熱弁を揮(ふる)つて差別撤廃につひて萬丈(ばんじょう)の気を吐き拍手喝采を以(もっ)つて迎えられ近来にない大盛況を呈(てい)した」と伝えています。

伊賀水平社は『自由新聞』を発行し、部落解放運動だけでなく、女性や労働者の権利を守る運動にも取り組みました。その活動内容は、現在の人権擁護活動にも通じるものでした。

部落差別の解消だけでなく、あらゆる人権問題に目を向けた先人がいたことは、伊賀の歴史として誇るべきことだと思います。また、同時に伊賀水平社創立から約100年を経た今日、先人たちに胸を張れるような、差別のない社会をめざした取り組みを進めなければならないと思います。

■ご意見などは人権政策・男女共同参画課 ☎ 47-1286　FAX 47-1288　✉jinken-danjo@city.iga.lg.jp へ